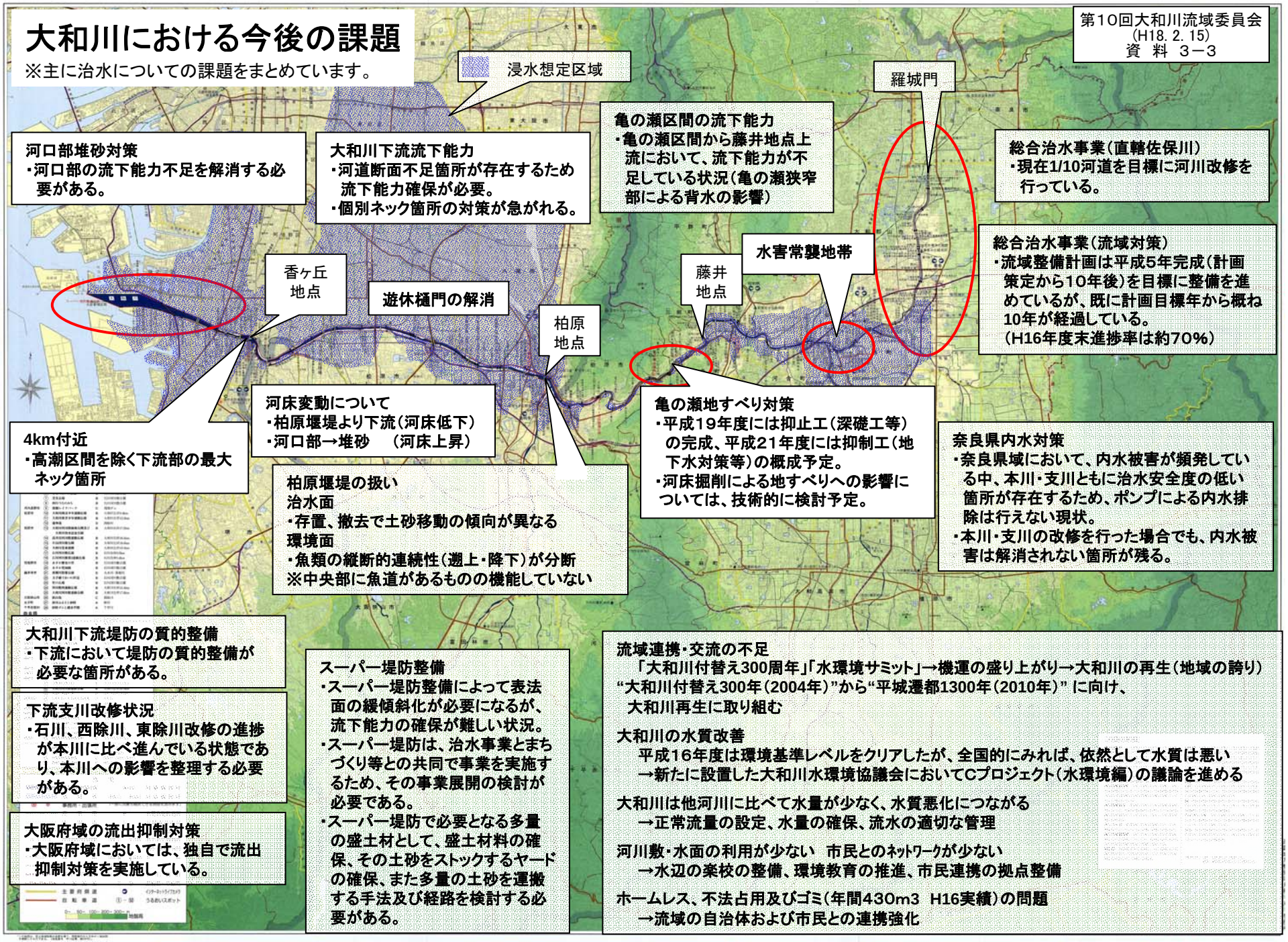
大和川における今後の課題

※主に治水についての課題をまとめています。

第10回大和川流域委員会
(H18. 2. 15)
資　料　3－3



河口部堆砂対策
・河口部の流下能力不足を解消する必要がある。

大和川下流流下能力
・河道断面不足箇所が存在するため流下能力確保が必要。
・個別ネック箇所の対策が急がれる。

亀の瀬区間の流下能力
・亀の瀬区間から藤井地点上流において、流下能力が不足している状況（亀の瀬狭窄部による背水の影響）

総合治水事業（直轄佐保川）
・現在1/10河道を目標に河川改修を行っている。

総合治水事業（流域対策）
・流域整備計画は平成5年完成（計画策定から10年後）を目標に整備を進めているが、既に計画目標年から概ね10年が経過している。
（H16年度末進捗率は約70%）

4km付近
・高潮区間を除く下流部の最大ネック箇所

河床変動について
・柏原堰堤より下流（河床低下）
・河口部→堆砂　（河床上昇）

柏原堰堤の扱い
治水面
・存置、撤去で土砂移動の傾向が異なる
環境面
・魚類の縦断的連続性（遡上・降下）が分断
※中央部に魚道があるものの機能していない

亀の瀬地すべり対策
・平成19年度には抑止工（深礎工等）の完成、平成21年度には抑制工（地下水対策等）の概成予定。
・河床掘削による地すべりへの影響については、技術的に検討予定。

奈良県内水対策
・奈良県域において、内水被害が頻発している中、本川・支川ともに治水安全度の低い箇所が存在するため、ポンプによる内水排除は行えない現状。
・本川・支川の改修を行った場合でも、内水被害は解消されない箇所が残る。

大和川下流堤防の質的整備
・下流において堤防の質的整備が必要な箇所がある。

下流支川改修状況
・石川、西除川、東除川改修の進捗が本川に比べ進んでいる状態であり、本川への影響を整理する必要がある。

大阪府域の流出抑制対策
・大阪府域においては、独自で流出抑制対策を実施している。

スーパー堤防整備
・スーパー堤防整備によって表法面の緩傾斜化が必要になるが、流下能力の確保が難しい状況。
・スーパー堤防は、治水事業とまちづくり等との共同で事業を実施するため、その事業展開の検討が必要である。
・スーパー堤防で必要となる多量の盛土材として、盛土材料の確保、その土砂をストックするヤードの確保、また多量の土砂を運搬する手法及び経路を検討する必要がある。

流域連携・交流の不足
「大和川付替え300周年」「水環境サミット」→機運の盛り上がり→大和川の再生（地域の誇り）
“大和川付替え300年（2004年）”から“平城遷都1300年（2010年）” に向け、
大和川再生に取り組む

大和川の水質改善
平成16年度は環境基準レベルをクリアしたが、全国的にみれば、依然として水質は悪い
→新たに設置した大和川水環境協議会においてCプロジェクト（水環境編）の議論を進める

大和川は他河川に比べて水量が少なく、水質悪化につながる
→正常流量の設定、水量の確保、流水の適切な管理

河川敷・水面の利用が少ない　市民とのﾈｯﾄﾜｰｸが少ない
→水辺の楽校の整備、環境教育の推進、市民連携の拠点整備

ホームレス、不法占用及びゴミ（年間430m3　H16実績）の問題
→流域の自治体および市民との連携強化